

上下水道や空調の設備工事を手掛ける。取引先はハウスメーカーなどの民間企業や官公庁など幅広い。現在、建物の長寿命化や省エネなどの環境対策などの需要は高まっており、個人向けのリフォーム事業拡大などでさらなる飛躍を目指す。

(須藤健人)

## とちぎのよき企業力

91

1951年、先代の父故一衛氏が文化釜戸の販売業を起した。耐火性と排気に優れた製品は、農村などで広く受け入れられた。次いで取り組んだポンプモーターの製造販売が縁で、日立製作所の家電販売チェーン店に加盟した。主力は家電販売へと移った。

転機は1980年代に訪れる。「入社したころ、大型家電量販店に押されて小規模店は厳しい状況だった」。将来が見通せない中、給排水設備と空調設備の工事へと業態変更することを決断した。

実を結び、民間建築物の機械設備や、ハウスメーカーの水道工事などを受注し、社業は軌道に乗る。小山市役所や小山署、新小山市市民病院など、

ヒタチ設備 小山

よこた まなぶ  
横田 学会長(63)

# 個人向けリフォーム拡大

小山市を代表する公共施設での設備工事も多く手掛けた。

### 顧客満足度を重視

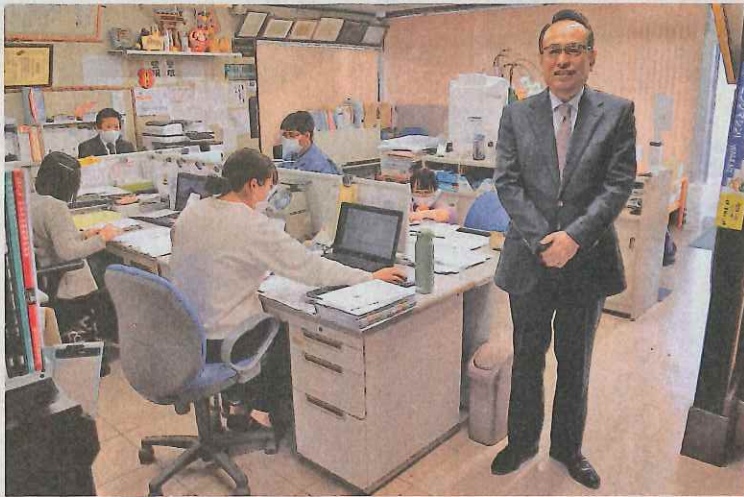
81年の入社当初、1億円程度だった年間売上高は、2021年12月期には約17億円にまで達した。だが「売り上げを伸ばすことにあまり関心はない」と言い切る。

## 社員技術向上にこだわり

### 営業部門は持たず

積み重ねた信頼は、安定的に発注する優良企業をリピーターとしてもたらした。営業部門を持たずに社業を伸ばすことができているゆえんという。

「買い取った中古ビルをリノベーションし、販売することも将来の主力になり得る」。変わらぬモットー「お客さまの困ったをよかつたに」を胸に、次の一手を打つ。



横田会長は小山市出身。千葉商科大卒業後、前身のヒタチ電気商会に入社した。1993年、ヒタチ設備に商号変更し社長へ就任、2019年から会長を務める。小山市商工会議所理事や同市管工事業協同組合理事長なども務める。後任の武井正浩（たけい・まさひろ）社長（44）はもともと管材商社の営業職。仕事ぶりに惚れ込み、後継者になるよう口説き落とされたという。本社は小山市駅東通り2丁目35の10。従業員数は25人。

**取材を終えて** 変化を恐れない社風だ。文化釜戸販売から数えると、主力事業は4度衣替えをし、現在も新たな種まきは続く。積極的な事業展開だけでなく健全な財務も目を引く。横田氏がトップに就いてからは

おおむね無借金経営を続け、現金での支払いが取引先の信頼を高める一因にもなっているという。「たいした経営者ではなく凡人」と謙遜するが、堅実さと大胆さを備えた司令塔と、記者の目には映った。